

秋田県男女共同参画情報誌【ラ ヴィータ】

# LaVita



ラ ヴィータ：イタリア語で“生命・人生・生活”

vol 75  
2010.10.31

パパ友、  
大集合！

特集

La Vitaな人々  
～育休をとった男たち～

いきいきクローズアップ  
「ほっとアートあきた」

男女イキイキ職場訪問  
「株式会社ニチイ学館秋田支店」

知ってるつもり!?  
イマドキの男女共同参画  
「リボン運動」

いんふおめーしょん  
男女共同参画について  
学習しました！

「美郷町立千畳中学校での取組」



La Vitaな人々  
～育休をとった男たち～

いきいきクローズアップ  
「ほっとアートあきた」

男女イキイキ職場訪問  
「株式会社ニチイ学館秋田支店」

知ってるつもり!?  
イマドキの男女共同参画  
「リボン運動」

いんふおめーしょん  
男女共同参画について  
学習しました！

「美郷町立千畳中学校での取組」



「イクメン」という言葉もじわじわ浸透してきているようです。積極的に育児に取り組む男性のことです。県内にも、イクメンが集まる「パパサークル」があると聞き、おじやまして活動の様子をつかがいました。パパたちが大活躍の3つの「パパサークル」をご紹介します。

# 「パパ友、大集合！」

特集  
1  
木にふれ、自然に学び、  
人に出会い

あきた木木(もくもく)遊び隊 隊長／山岡 薫さんに聞く



## ないものは作ればいい パパサークルの誕生

子どもが生まれたとき、お母さんたちは情報網があつて、子育てサークルやイベントなども充実しているのに、お父さんたちの集まりはない

9月18日(土)、千秋公園で開催された「千秋公園ジャズ・インプレッション」。その会場の一角にあるテントから、「子どもの楽しそうな声が聞こえてきます。

「あきた木木遊び隊」のブースです。この日は子どもたちが「マイ箸づくり」に挑戦していました。

そこで、イベントに参加したお父さんたちに声をかけたところ、快く協力してくれて、今年4月、7人で「あきた木木遊び隊」を立ち上げました。みんな、未就学児を持つパパたちです。



「マイ箸づくり」の練習をするパパたち

のだろうか、と考えました。

そこで、「子育て応援seed」

山崎さんに、面識もないのにいきなり、「こんなことをやりたいです」とメールを送りました。そしたら「一緒に何かやりましょう」と返事が届いて、活動が始ったんです。はじめは

お母さん向けの座談会や、子どもまつりのようなイベントを行いました。その後、他県の事例を参考にして、「パパサークル」を作つてみないかとアドバイスをいただきました。

特技を生かし  
「自然」がテーマ

メンバーの中に、木を扱うのが得意なパパ・木育(もくいく)部長がいるんです。木に触る、自然とふれあうことは子どもの成長にも大切なことですし、親子でいっしょに作業する楽しさも味わえるので、「木」をテーマにしたサークルに決まりました。

サークルを作ったことで、仕事以外の集まりがてきて、視野が広がりました。「木木」のメンバーはみんな前向きなんですよ。反対意見が出ない。誰かが提案するとみんな「やろう、やろう」って。子どもを通して、とても居心地のいい場所を見つけた感じがします。



#### 「マイ箸づくり」イベント当日の様子



A simple illustration of a campfire made of four sticks, with a single white stick being roasted over the flames.

「あきた木木遊び隊」の活動や今後の予定は、ブログで見ることができます。  
<http://akimoku.exblog.jp/>

地域を問わず、だれでも気軽に参加できます。「いっしょに遊べる人を増やしたい」と、これからも楽しい企画を考え中だそうです



## 子育てによって自分も変化

勤務医でした。でも、子どもが生まれてから、開業しちゃったんです。大冒

育児・子育ては難しそう、何をしていいかわからないパパもいると思います。でも、母乳をあげる以外はパパ

診にして出かけてしまいます。  
もちろん僕は仕事柄、たまたま可能  
だったわけですが、ちょっと視点や考  
えを変えたり、子育てしやすい環境を  
整えたりすることはだれにでもでき  
るはずです。積極的に子育てに関わる  
うといふ意識を持っていれば、できる  
ことが見えていると思います。

にできなくなつたはないと悟つてゐます。何だつて、いんですよ。例えば、ママがお料理している間、邪魔にならぬように、パパが子どもと遊んであげるとか、ママのリフレッシュのためにちよつと子どもを連れ出してお散歩するのも、十分に子育てに参加していいと思うのです。

子じもがいるといいとは、思ふ  
る世界が違いますからね」「子育て」  
のものを楽しんで欲しいと思いまや。  
僕たちもそのお手伝いができればいい  
ですね。

## 特集2

# つながりを楽しく 創つていきたい

大館市立長木小学校親慈（おやじ）塾／渡辺孝義塾長（PTA会長）に聞く



父親には父親なりの教育が出来るし、学校任せにしないことが大切だと思います。親慈塾では、母親だけでは行けないような、男の力が必要なこと「危ない」と行うことを意識しています。

大館市立長木小学校PTAでは、「家族（特に父親）と子供が一緒に笑顔で活動する機会を増やす」ことを目的とし親慈塾を行っています。

## 親慈塾は父親の出番！

親慈塾の活動を開始したのは2007年のこと。男親で子供との交流の場が出来ないか？という声があり、長木小学校PTAから、学校の先生に提案すると、先生方は「はい！やりましょう！」と快く賛同し「親」と「慈愛」の「慈」を組み合わせた名前を付けて親慈塾は生まれました。

PTAの主催である親慈塾に対し学校は協力するという体制が整っています。

## 親子で川遊び



川遊びを楽しむ子供たち



今年夏の親慈塾「川上り冒険」

りました。

親慈塾での行事は、楽しいと同時に「自分で考える、判断する」という一面を意識しています。子供たちには、川遊びの時に「これをしてはダメだ」とか、叱ったり、怒ったりしません。

もちろん川で遊ぶ際には、父兄たちは子供たちが流れたりしないように、真剣に見守り、十分に安全を確保した上で遊びます。

子供たちは「これはダメ」と禁止してもかえってやりたくなるものです。川との触れ合いでも子供たちの感想として、川の流れに驚き「怖い」という反応を聞いた時に、それは嬉しい反応と受け止めています。

水深15センチぐらいの川であっても「怖い」と感じておくことは、川は楽しいと同時に危険なものであると理

解しそれは貴重な体験として今後に生きると思うからです。  
そうした中で、子供たちはある時には足を滑らせたり怖い思いもするのですが、「ほらね、だから危ないだろ」と云え、そのようにして学んでゆくことを大切にしています。すると子供たちも納得してくれます。

## 広がる交流の輪

親慈塾は、今では恒例のものとなり、「今年はやらないの？」と子供たちも大人たちも楽しみにしてくれるようになりました。これからも親慈塾を継続して父兄なりの教育・しつけ等をしながら親子間のつながり、親同士のつながり（子供たちのつながりを楽しむ）創つていけたら、と思っています。

## つながりを楽しく 創つていきたい

PTAの主催である親慈塾に対し学校は協力するという体制が整っています。

今年夏の親慈塾「川上り冒険」

には、約50名の参加者があ

# 遊びは学び。親子の自然体験で横手をもつと楽しく

NPO法人清川の里「炭焼き体験」を訪問して



クリやまつぼっくりの炭

母親サークルに  
交じって、「NPO法人清川の里」  
も炭焼き体験コーナーを開設、



(左)永沢豊さん (右)金沢直樹さん

親子連れでにぎわいました。

代表理事の金沢直樹さんによる活動のキーワードは「福祉・環境」。横手市で生まれ育った金沢さんは、東京の大学を経て宮城や長野での山のガイド、山村留学生受け入れなどの仕事をしてきました。

「横手を元気にしたい」と、戻って

きたのは5年前。「土地の匂いや川の流れ、米の美味しさ、食感など、体の五感を使った自然体験イベントを通じて、地域の素晴らしさを子どもたちに伝えたい」と、今年4月、金沢さんは同級生や子どもつながりの30代の男性たち4人を主軸に、NPO法人を立ち上げました。

## 学校・職場以外に人間関係が広がり

メンバーは自営業、サービス業、税理士、市議など多彩で、活動を通して父親同士の異業種交流の場にもなっています。

理事の一人、永沢豊さんは「職場以外の人間関係や横のつながりが、自分の中でもとても大きい。次は集まつて何をしようかと楽しくなります。

また、子どもも別の小学校区の子たちと友達になれるので、交友の幅が広がります。活動を通して子どもたちの成長も進んできたように思います。うちの子どもは祖母を家において親子で外出するとき、祖母を心配するようになりました。家族への気遣いができるようになり、気持ち

り、水遊びをしたり。

「田舎に住んでいるにもかかわらず、自然と触れ合う機会が少ない。例えば、クリの『イガ』って本当に痛いのか、親が教えてやって家族で体感したら共有できますよね。いろんな遊び場所や遊び方があるので、親が知らないから子どもも知らない。一緒に遊ぶことが大事なんですよ」と金沢さん。



秋のミステリーツアー／サトイモ掘り体験

の成熟度が違ってきたと思います。家族の会話も増えましたよ」と、親子関係の変化を語ってくれました。

9月下旬には、金沢さんが月1回主催している「ガキ大将クラブ」の「秋のミステリーツアー」が開かれ、山内村の農家でサトイモ掘りをして「いものこ汁」を食べたり、ブドウ狩りをしたり。参加した12人の子どもたちは大満足の様子でした。

「大人も子どもも自然の中でもっと楽しもう。遊びは学びだよ」。金沢さんたちの活動はますます熱をおびています。

## 育休を取つた男たち

ひと  
ひと



和泉 寛さん(34歳)  
あきだチャイルド園に勤務  
平成22年1月1日～3月31日 育児休業取得

「なんだよ」と声をかけてくれたことで肩の荷が下りました。実際にやってみて、毎日家事・育児をこなす妻の苦労と、そのレベルの高さに気づかされました。子どもが泣き止まずに大変だと感じる時もありましたが、彼が寝返りを始めるなど、たくさん「初めての瞬間」を目にすることができる本当に嬉しかったですね。

### パパ仲間と子育て満喫中！

息子が生まれ、あらためて子どもたちの大切さを実感しています。育休を終えてからは保育園に送迎に来るお父さんたちと育児の情報交換をする機会も増えました。現在は秋田市内のパーサークルに所属し、家族や仲間とみんなで楽しく子どもの成長を見守っています。

「いつか自分の子どもが生まれたら育休をとりたい」「この願いは、私が結婚する前、さらに妻に出会うよりも以前にさかのぼり、保育園に就職した6年前から上司や同僚達にも伝えてきました。待望の長男が誕生し、4ヶ月目を迎える頃、妻と交代で私が3ヶ月の育休をとりました。我が子が最も大きく成長する時期と一緒に過ごしたかったんです。

### 母親のアドバイスで気持ちがラクに

保育士という仕事柄、子育てには不安がなかったものの、料理や家事を担当することが心配の種でした。育休取得前に、私が担当する園児のお母さんが「お物菜でも何でも、食卓にあればいいんだから無理に頑張らなくてもいい

**澤口勇人理事長・園長からのひとこと**

和泉君は、結婚前から「子どもができるなら育休を取りたい」と話していたので、この度ようやく実現したわけです。

育休制度には、職員や職場に対する経済的支援をはじめ、まだ改善すべき点が山ほどあります。もし日本が、本当に子育てしやすい国を目指すのであれば、育休をとりたい人が不安なく休めるよう、社会全体でフォローする体制を整えなくてはならないと考えます。

## いきいき クローズアップ

CLOSE  
UP  
NPO法人  
「ほつとアートあきた」



データを幾つか確認。その後「自分自身が育児休暇を取つたらどんな感じですか?」というテーマで、参加者一人一人が雑誌等を切り取り、貼り付けながら、コラージュを作りました。

それを皆で発表をし、それぞれの言葉を聴きながら、気づきや発見がありました。

時田さんは「男女がお互いに認め合い、助け合ってゆく関係が大切ではないか?」と話し、今後も「イクメン予備校」のような催しをアートあきた「主催で開催されました。

今回の「イクメン予備校」の企画について、理事長である時田和幸さんは「現在の『ワークライフバランス』や『少子化』の課題について考えた時に、男性の子育てへの参加、協力、意識の向上が不可欠であると強く思い、そのキッカケづくりをしたかった」と話してくださいました。

一回目の参加者は9名でした。自己紹介の後、「子育て・パパ検定模擬試験」を行い、子育てに関する



NPO法人 ほつとアートあきた  
<http://www.akita-kenmin.jp/hota/>  
TEL018-853-9320

## 男女イキイキ! 職場訪問!

秋田駅前にある  
「株式会社一チイ学館秋田支店」に  
おじゃまします!



夫しています。同じ職場内での部署異動や近隣の職場への異動も選択肢に入れて考えるので、一人一人の希望に沿った働き方に変えることができます。

産休や育休については、ほとんどの職員が取得しているそうです。

原則として、職場復帰は同じ職場・同じ役職としており、個に応じて復職のためのフォローアップを実施しています。他の職員が欠員を埋めるので、安心して休むことができる環境です。

また、キャリアアップ制度があり、

経験年数や技能等によって、スキルアップしたり管理職を目指したりすることができます。管理職を目指す女性はあまり多くないところですが、

33名、合わせて596名と女性が大変に多い職場です。

こちらでは、女性がライフステージの変化に合わせて働くことができるように、柔軟な対応を行っています。例えば、結婚や子育てのために働く時間を見直したいときには常勤からパートタイムに、子育てが一段落したたらパートタイムから常勤に、それぞれの希望に応じた働き方を工

## 用語解説 「イマドキの男女共同参画」

丸みを帯びたリボン型シンボルマークを見かけます。衣類にパンで留めたり車にステッカーを貼ったり、また、企業が販促品にプリントするなどして、その運動を支援していくことを表明します。一例を紹介します。

### オレンジリボン

児童虐待防止と撲滅を目指すオレンジリボン運動。11月の児童虐待防止推進月間には全国でイベントが行われ、秋田県庁前でもライトアップを予定しています。



### ピンクリボン

乳がんの正しい知識を広め、検診の推進などを目的としたピンクリボンは世界規模のキャンペーンです。

### 様々なリボンプロジェクト

エイズ患者への理解と支援のためにアメリカで始まったレッドリボンや、世界中全ての女性への暴力根絶を訴えるペープルリボンプロジェクト。そのほかにも、北朝鮮による日本人拉致被害者を守るブルーリボンや、小児がんの研究開発支援のためのゴールドリボンなどもあります。



寄付や協賛で支援グッズを入手できます。「アッシュショット」ではなく、正しい意味を理解して使用したいものです。

連載♪

## まいちゃんの素朴な疑問



最近、積極的に子育てを楽しむお父さんが増えてきました。  
しかしまだ環境が十分とはいえないようです。  
あなたのまわりはどうですか？

## [編集後記]

「ラヴィータな人々」にご登場いただいた和泉さんが、「あきた木木遊び隊」のメンバーでもあると知ったのは取材時のうれしい偶然。秋田のパパ友の輪、これからも大きく広がっていくことを期待します。

(伊藤 美生)

子どもが喜ぶことを第一に考える「ママサークル」に比べると、「パパサークル」は自分が楽しむ・一緒に遊ぶ場所に思えました。表紙のにぎやかな写真からも、パパたちのうれしそうな様子がうかがえます。ちびっこ育てはわずか数年間。その間にできることに何でもチャレンジしようという強い気持ちがパパたちから伝わってきました。

(坂本 佐穂)

## いんふおめーしょん

## 男女共同参画について学習しました!!

## 美郷町立千畠中学校での取組

6月9日に、千畠中学校の校内授業研究会で、「男女共同参画」をテーマにした社会科の授業が行われました。5分程度の朗読劇を生徒自身が演じたり、世界の中の日本の状況についてクイズ形式で考えたりしました。

最後の振り返りでは、「中学生の今は男女の差別を感じていないけれども、大きくなり社会に出た時に少しずつ大きな差別として感じるようになるかもしれない。」という意見がありました。



## 活躍するあきたF・F推進員

ゲストティーチャーとして、あきたF・F推進員であり、美郷町住民懇話会座長でもある中村しげ子さんが授業に参加し、「差別しないことが大切」というテーマでわかりやすく話してくださいました。

中村さんの話を聞くことで、身近な問題として楽しみながら学習することができました。



## 「あきたF・F推進員」とは？

F・Fとは『Fifty・Fifty』の略。男女共同参画社会の実現に向けて各市町村での取組みや地域活動が活発に行われるよう、推進的な役割を担うリーダーです。現在、95名の方が活動しています。



「La Vita」を読んでの“ご意見・ご感想”をお寄せ下さい。お待ちしています。

秋田県生活環境部男女共同参画課 〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号

TEL.018-860-1556 FAX.018-860-3895 E-mail:persons@pref.akita.lg.jp